



本日から6日(土)まで、本校では、「令和6年度 西中っ子の心を見つめる教育週間」に入ります。この期間は、どうぞ気軽に学校にお越しいただき、生徒たちの様子をご覧ください。また、6日の土曜日授業も、たくさんのご来校をお待ちしています。 学校長

## 6月21日(金)、第1回目の避難訓練(火災)を実施しました

6月21日(金)5校時目に、大村消防署から2名の隊員に来ていただいて、令和6年度 第1回目の避難訓練を実施しました。

梅雨入りしたばかりのこの日は、天候が心配されましたが、何と見事に太陽が顔を出し、計画通りに実施することができました。これも、「日頃の先生方や生徒の皆さんの行いがよいからかな？」とホッと胸をなでおろしたところでした。

さて、避難の結果はどうだったかということ、避難完了までの時間が6分12秒ということで、昨年度よりも少し遅くなっていたようです。このことも含めてさまざまな反省や改善事項が見つかりましたので今後に生かしていきたいと思えます。

また、避難後は、各学年ごと3名ずつの代表者による水消火器を使った消火訓練を実施しました。



### 【ちょっといい話】

訓練自体は、おおむね良好に終了しました。十分に本校生徒のよさを感じたところですが、さらに素敵な場面に遭遇しました。訓練終了後に、各学年ごとに解散をしたのですが、その際に、お世話になった消防署員に、退場しながら「ありがとうございました」とお礼を述べる生徒が各学年毎にたくさんいました。なかなか経験したことのない素敵な光景でした。生徒の皆さん、適切かつ素敵な対応をしてくれてありがとうございました。

## 七夕の準備ができました

本校の用務員、山本さんが、七夕用の竹を準備してくれました。生徒玄関には、生徒それぞれの願いを書いた短冊が飾られています。短冊の自由な表現にこれも本校のよさかなと感じました。(※節度がないのはダメですが・・・)

山本さんの話では、最近竹も猪に荒らされて、なかなかとれなくなっているのだそうです。山本さん、ありがとうございます。また、企画してくれた文化部の皆さんもありがとうございます。(※ちなみに下駄箱のくつもきれいに並んでいました。)



## いつもありがとうございます

竹を準備してくださった山本さん。同じく用務員の口石さんと一緒に、毎日、丁寧に素敵な学校環境を整備してくださっています。生徒の皆さんも出会ったら感謝の気持ちを伝えてみましょうね。



生徒の皆さん！！

気づいてましたか？また、利用しましたか？

「よりみち文庫」素敵な取組ですね。

豊かな心を養うためには、読書も有効なツールの一つです。

ぜひ、利用してみてください。

裏面には、「読書のすすめ」として、読書の素晴らしさを特集しましたので保護者の方も一緒にご一読ください。また、図書館の田野平さんも寂しそうです。図書館へレッツゴー！！



各ご家庭でも、是非とも読書に親しんでほしいと願っています。  
読書の効果は絶大です。

### 「読書のすすめ」

読書が脳をつくるというのは、次の3つの意味があります。

- ① 言葉の意味を補う「想像力」が鍛えられる
- ② 「自分の言葉で考える力」が身に付く
- ③ 読んで味わった経験を脳に刻むことができる

これらが相まって脳は変化し、成長し、つくられていくのだそうです。  
通常、私たちが外界から情報を得る主な方法には、活字・音声・映像があります。  
そのうち、最も情報量が多いのが映像です。

例えば、「思いがけないことがあった」と聞いた時…

映像 → それが良いことか悪いことか、表情を見ればわかる。

音声 → 声の抑揚を感じ取れば、わかる。

活字 → 文脈がつかめなければ、実際がどうなのかはわからない。

このように、入力の情報量は、**活字 < 音声 < 映像** の順で増えていきます。

#### 【映像について】

利点：情報量が多いため、受け取るだけで、何を伝えたいのかがわかりやすい。

欠点：受動的に見たり聞いたりすればよいので、考えずに受け流してしまいやすい。

#### 【活字を読むだけの読書】

受け取る情報量が少ないため、前後の文章の流れをくみ取ったり、その背後にある文脈や意味を考えたりと、相手が何を伝えたいのかを想像して、自分の言葉で置き換えながら補っていく必要があります。

つまり、読書をするすることで、本の中にある限られた情報からどこまで書き手の意図どおりに復元できるかというトレーニングになり、**想像力**、そして**自分で考える力**が身に付いていくのです。

#### 【コミュニケーションにおいて大切な想像力】

**想像力を身に付けていくことは、人と人とのコミュニケーションにおいてとても大切です。**

自分の思いを伝えたいと思っても、うまく言葉にできなかつたり、ちょうどよい言葉が見つからなかつたりという経験は誰にでもあつてでしょう。自分が思っているとおりに相手に伝えるというのは、難しいものです。相手が同じ言葉を文字どおり受け取ったとしても、その言葉を使った意図が、相手の脳の中で再構築されるとは限りません。

そうした際に重要になるのが**想像力**です。

物事に対する価値観、言葉に対する認識、持っている知識や経験などが相手と共有されていれば、コミュニケーションに食い違いが生まれることも少なくなります。実際にはそのどれにもミスマッチが生じやすいものです。そこで、相手の意図に少しでも近づけるように、想像力で補わなくてはなりません。

情報を受け身で受け取ることに慣れてしまっていると、コミュニケーションにおいてもあまり深く考えることなく表面的に捉えがちになります。

本来、文字にした段階で情報量はかなり落ちているのに、たとえば、自分に対して否定的なことを書かれただけで、相手の発言の意図を考えずに反撃に出してしまうことも起こり得ます。

他人に対する想像力が乏しいと、自己主張がぶつかり合うだけの殺伐とした社会になってしまうことでしょう。メディア(SNS等)のトラブルも、ここに原因の一端があると考えています。

#### 【小さいころから自分の言葉で考える】

大人と比べると、子どもの脳はとても柔らかく、外界からの刺激をそのまま吸収していき、その繰り返しのよつて脳がつくりこまれていきます。

たとえば、言語の習得がまさにそう。乳幼児は、特に勉強していないのに、外界から言葉を受け取り、それを単語や文法などに分けて覚え、自ら再構成していきます。

そのようにして脳が発達していく大切な時期に、たくさんの本を読んで、いろいろな想像をして、自分の言葉で考えていく経験を繰り返すことは、とても重要です。

大人になって、脳ができ上がつてからする読書とは、その役割が違つたのです。

読書は言葉の力を自然と伸ばしていけるので、とても奥が深いものです。活字が苦手なお子さまであれば、**読み聞かせ(読み語り)**という方法もあります。

中学生以上の子どもであっても、読み聞かせは有効だという報告もあります。今の子どもたちは、小さいころから映像を見る機会が多いため、大量の情報を考えずに受け取ることに慣れてしまいがちです。

その危険性に気がつかぬまま成長していかないと、ぜひ幼少期から読書をしてほしいと思います。

もう、幼少期は過ぎたから無駄だということはないと思います。少しづつ始めてみてはどうでしょうか。

本校でも、子どもたちの心を耕し、コミュニケーション能力を高めたいと考えています。

読書についても、ご家庭にもご協力いただきながら進められると、さらに効果的だと考えます。

この機会に、「家族読書」など一緒に取り組む時間をつくってみてはいかがでしょうか。

